

学年担任制への移行に向けて 2

2025年 3月3日 柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志

今日は非認知能力についてわかりやすく説明したいと思います。計算力や読解力などテストで測ることができる能力を「認知能力」と呼ぶ一方で、コミュニケーション力や意欲・忍耐力など数値化して測ることができない能力のことを「非認知能力」と呼びます。柏市では10年前から柏市で育む4つのCとして「見通す力（Concept）挑戦する力（Challenge）関わり合う力（Communication）自立する力（Control）」につながる意識を問う18の質問項目を設けて、子供たちの意識している状況を学習状況調査の中で調べています。

各項目の子供たちの意識は、「とてもあてはまる あてはまる あてはまらない 全くあてはまらない」の4択で調査し、4点～1点と点数化して結果が現れています。その結果を見ると、富勢小学校の子供たちは18項目の全てで、柏市の平均値を下回っている状況がここ数年間続いており、全ての学年のほぼ全ての項目でその状況が見られます。特に、自己肯定感・伝える力・振り返りといった項目では、顕著な課題が見られます。

私としましては、自己肯定感が柏市平均3.02に対して富勢小が2.82というところに最も強い危機感を持っています。自己肯定感は成長につれて下がっていく傾向が見られますが、柏市の平均では5年生から3.0を下回るのに対して、富勢小は3年生で3.0を下回っています。できること・できないことはそれぞれの子供たちにありますが、できなくても認められて、きっとできるようになるから頑張ろうと多くの人（先生や友達）たちから声をかけられ、自分の可能性を信じてチャレンジしていけることが、自己肯定感を伸ばしていく要因になると考えています。

子供の自己肯定感を高めるためには、子供のありのままを信じて受け入れて励ましていくことが大切だと考えています。学級担任という意識から学年担任という意識に先生たちの意識を変えていくことで、様々な子供たちの様子を多面的に捉えて声かけをしてみたり、体験的な学びの機会を増やしたり、自己肯定感の向上につながる機会が増えると考えています。当然先生たちもチームとして関わり、子供たちのありのままを受け入れながら伸ばしていく意識を持つことが不可欠です。様々な経験知を持つ先生方が学年担任制という中で子供たちの情報を共有し、指導方法を共有しながら、子供たちを育てていき、子供たちにとって最も大切な生きる力である「自己肯定感」を育んでいきたいと考えています。学年担任制を取り入れる最も強い具体的な理由について説明をいたしました。明日は、スケジュール感について説明をしたいと思います。